

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101652		
法人名	社会福祉法人 すだち会		
事業所名	すだち会グループホーム		
所在地	徳島県徳島市大原町余慶71番地の2		
自己評価作成日	平成21年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670101652&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成21年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の近くには大神子海岸や日の峰広域公園など豊かな自然があり、静かな環境となっている。散歩に出かけて近所の人や子供たちと語ったり、草花の手入れやベンチでのひなたぼっこ、買い物、ドライブを楽しんだりしている。職員が「ただいま」と玄関の戸を開けると、入居者からの「おかえりなさい」の言葉と一緒に、食事の支度のにおいや洗濯機がまわる音が迎えてくれる。温かい家庭のようなグループホームで、入居者が自分らしく安心して、いつも笑顔で心地よく過ごしていただけるよう、“ゆっくり”“楽しく”“一緒に”をモットーにして、一日一日を大切に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はアクセスの良い新興住宅地にありながら、近くには緑豊かな自然が広がる美しい環境の中に位置している。玄関前には手入れされた花壇が整備され、敷地の奥には利用者と職員が一緒になって野菜を育てている菜園がある。居室やリビングはゆったりとした広さがあり、明るい日差しが差し込む大きな窓からは、周辺の季節の移り変わりが眺められる。管理者と職員は利用者の気持ちに寄り添い、優しく穏やかな態度で接し、一人ひとりが自分らしく安心して毎日を暮らせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員でつくりあげた理念を、毎朝の引き継ぎ時に唱和している。また、全体ミーティング等で、理念・基本方針を話し合っ確認し、理念に基づいた地域とのよりよい関係を築けるよう実践に取り組んでいる。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくっている。管理者と職員は毎朝唱和し、ミーティング時の話し合いも行い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	庭での花火や研修、ボランティア来所等の前には、利用者と共に近所に挨拶に出かけ、参加をお誘いしている。小学校の廃品回収に毎回参加しているため、音楽発表の際に声をかけてもらえるような関係になっている。	職員は利用者と一緒に近所の家を訪問し、行事への参加を呼びかけたり、事業所で採れた野菜をおすそ分けしたりしている。小学校の廃品回収には毎回、利用者とともに参加し、学校側からも発表会などへの招待がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症やホームでの取り組みに関するパンフレットを作成して配布し、知ってもらえるよう働きかけている。小学生によるホーム探索や交流会を行ったり、教員に対する説明や見学を行ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加している民生委員や近隣住民、家族に協力を得て、小学生との交流やボランティアの来訪等につながっている。議事録は全職員が閲覧し、内容を把握している。	運営推進会議では、事業所の取り組みや改善課題、評価結果について、双方向的な話し合いを行っている。会議の内容は記録し、全職員で共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	要介護認定等の更新手続きや支援内容の相談、運営推進会議の議事録提出時、電話等で質問や相談を行い、話し合える関係を築いている。	要介護認定の更新手続きや報告書等の提出時に窓口を訪れて話し合う機会を持ち、気軽に質問や相談ができる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開き、全職員が身体拘束をしないケアを共有し、実践している。また、鍵をかけることの弊害を理解し、見守りや言葉かけを行い利用者一人ひとりの状態を把握し、施錠しない暮らしを心がけている。	ミーティング時に勉強し、身体拘束を行わないケアを実践している。玄関への施錠は行わず、職員の言葉や動作においても拘束の危険があることなどを話し合い、全職員で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員で学ぶ機会をもち、虐待の防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が地域包括支援センター主催の勉強会に出席して学んだことを全職員に伝えるなどし、少しずつ学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約の申し出があったときには、本人や家族と話し合う時間を十分に持ち、理解を得て納得してもらえるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は常に利用者と和気藹々と話し、また家族の面会や行事の時には声をかけ、希望や意見を話しやすい雰囲気づくりを心がけている。玄関には意見箱を設置し、外部への苦情相談窓口のポスター掲示も行い、周知している。	職員は利用者と常に言葉を交わし、要望を引き出すことに努めている。家族の来訪時や家族会などの際には、気軽に意見を出してもらえるよう声かけを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や週1回のケア会議、月1回の全職員参加によるミーティングの際に、意見や提案を出し合うようにしている。	職員はケア会議や全体ミーティングで意見を出し合い、事業所の運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修情報を収集し、職員の段階に応じて受講できる機会をつくらせている。研修内容はミーティングで発表し、また報告書は全職員で回覧して共有し、日々のケアの中で実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会徳島県支部に加入し、研修会等に積極的に参加している。また、同業者との交流を通して勉強し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			ユニット 1 実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談したり、見学にきてもらったりして十分に話をしたうえで、納得して利用してもらえるよう取り組んでいる。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様に、家族からも十分に話を聞かせてもらい、安心して利用してもらえるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたり、面会したりした時に本人や家族の思い、状況等を確認し、関係を築いている。他のサービスが適切だと判断したときにはその旨を伝え、紹介等を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である利用者から礼儀作法や家庭菜園での作業方法、調理を教えてもらう機会が多くある。またねぎらいの言葉をかけあうなど、生活のパートナーとしての関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告をしたり、行事に参加してくれた時には楽しい時間を共に過ごしてもらえるよう配慮している。職員は、家族とともに喜び、悩みながら本人を支えられるよう関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた事業所で馴染みの人が集まる楽しい時間をもったり、地域の美容院へ行って昔話を花を咲かせたりしている。また友人の来訪を受け入れ、以前からの関係が持続できるよう配慮している。		利用者が入居前に入っていた趣味の会の友人や、利用していた事業所の仲間の来訪がある。また行きつけの美容院やスーパーに出かけたり、住んでいた家を見に行ったりするなど、利用者の希望を叶える支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションなどの時には、職員が利用者の中に入って一緒に過ごし、一人ひとりが孤立することがないように見守り、利用者同士の関係がうまくいくよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った方に会いに行ったり、行事に誘ったりしている。また運営推進会議への出席を依頼するなど、継続的な関わりを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとの担当職員が中心となって、本人や家族の意向、要望を聞いたり、日頃の何気ない会話の中から生活への思いや希望の把握に努めている。また全体ミーティングで職員全員で共有し、日々の支援に反映している。	職員は常に何気ない会話の中から、利用者一人ひとりの希望や意向をくみ取ることに努めている。誕生日には担当職員が付き添って「お誕生日外出」を行い、利用者の希望どおりの過ごし方をしてもらう取り組みを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者を理解し、生活のパートナーとして一緒に暮らしていくために、アセスメントが大変重要で意義のあることだということを入居時に説明し、本人や家族に納得してもらっている。生活歴や馴染みの暮らし、入居に至るまでの経過を詳細に聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の支援の中から、生活リズムや本人のペースをつかみ、一日の過ごし方や心身の状態、残存能力など有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望・希望を基に、かかりつけ医や看護師からも意見を聞き、職員による日々の気づき等も参考にしながら介護計画を作成している。毎月のケース会議では、課題分析と評価を行い、状態変化時には利用者や家族、必要な関係者と相談しながら、随時、見直している。	介護計画の作成に当たっては、本人や家族の希望、意見を取り入れ、また日頃の職員の気づきやアイデアを出し合って検討している。計画が常に現状に即したものとなるよう、定期的に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を作成し、バイタルや一日の行動、職員の気づきなどを全員が共有できるようにしている。介護計画の見直しにも十分活用できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や外出、外泊などは、本人や家族の要望、状況に応じて、個別かつ柔軟に対応している。短期利用型共同生活介護を活用し、在宅の利用者への支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員から地域や公民館での行事の情報を教えてもらったり、小学生やボランティアとの交流、消防との協力、地域のケアマネジャーから意見を出してもらうなどし、利用者が地域の中で安心して暮らせるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じたかかりつけ医への受診を支援し、家族や職員が付き添っている。	本人や家族が希望する医療を受けられるよう支援している。以前からのかかりつけ医への受診には、家族や職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ってらっている。職員は、利用者一人ひとりの体調や些細な表情の変化を見逃さないよう、早期発見を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には頻繁にお見舞いに行き状態を確認したり、担当医師や看護師と情報交換を行ったりしている。退院に向けた相談についても同様に対応し、本人や家族の不安を軽減できるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に向けた対応は、本人や家族の意志や希望を踏まえ、最後まで尊厳を持って生活できるよう関係機関と連携している。また、事業所の対応方法を契約時に説明し、随時、個別の状態に合わせて話し合う時間をもち、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方については、本人や家族の意向を聞いて関係者間で話し合い、方針を決めて共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に、適切な対応ができるようマニュアルを作成し、勉強会や話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、火災を想定した避難訓練を行い、利用者にも必要性を感じてもらっている。消防署の協力を得て行う防災訓練には、地域の方の参加もあり、協力体制を築いている。	毎月1回、利用者と共に火災訓練を行っている。火災以外の災害を想定した訓練については、十分ではない。また地域からの協力は、運営推進会議のメンバーのみとなっている。	地震や台風、水害など災害の種類や発生時間を様々な想定した訓練の定期的な実施が期待される。また地元の消防団や住民など、協力体制を築くためのさらなる取り組みも期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は高齢者に対する尊敬の気持ちを大切に接している。日常的な言葉かけや入浴、排泄支援時には職員がお互いに注意し合いながら、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応ができるよう気をつけている。	人格の尊重やプライバシーの確保について初任者研修を行い、徹底している。日々のケアの中で馴れ合いになってしまわないように職員間で常に話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のつぶやきや表情などから思いをくみ取り、自分で決めたり納得できるよう、一人ひとりに合わせた言葉かけや支援方法を考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度決まった生活パターンの中であっても、利用者一人ひとりのペースを大事にし、時間をずらしたり、延長したりしている。家族との時間を優先するなど、体調や希望に合わせた暮らしが送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃の身だしなみや外出時のおしゃれなどは、本人と話しながらその人らしくできるように支援し、また、馴染みの美容院や訪問理美容も活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつや材料や果物類と一緒に買いに行ったり、献立作りや野菜の収穫、食材の仕分け、調理、配膳、後片づけなど、それぞれのできる力を活かした支援を行っている。また食堂やベランダなどで、利用者と職員が一緒にテーブルで、同じ物を食べながら楽しい時間を過ごしている。	利用者が楽しめるよう季節の食材を使った食事を工夫し、職員も一緒に会話をしながら食卓を囲んでいる。また利用者は下ごしらえやテーブル拭き、後片付けを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列施設の管理栄養士が作成した献立を参考にし、栄養バランスに配慮した食事を提供している。一人ひとりの状態に応じた支援ができるよう摂取量を記録し、変化時にはかかりつけ医の指示を受け、形態や支援方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、歯科衛生士から指導を受け、口腔内の清潔に気をつけている。食後には一人ひとりの状態に応じた支援を行い、気持ちよく過ごしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の確認や職員間での情報共有などによって一人ひとりの力や排泄パターンを知り、言葉かけや誘導で失敗を減らし、気持ちよく過ごせるよう支援している。	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない言葉かけを行い、できるだけオムツを使用しない暮らしに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に豆や野菜、海草類を多く取り入れ、水分や乳製品の摂取にも努めている。また毎朝の体操や歩行訓練、散歩など身体を動かすことも勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望に合わせ、また安心して入浴できるよう配慮している。仲の良い人同士で一緒に入ってもらったり、足が冷える人などには毎日足浴を行ったりし、喜んで入浴している。	入浴は、本人の希望を聞いて実施している。仲の良い利用者同士で一緒に入ったり、足浴を行ったりし、それぞれが望むことを叶えるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活パターンを知り、また、状況や体調に応じた支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の管理の大切さを理解しており、個々の説明書により把握するよう心がけている。薬の変更があるときには、細やかな状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの希望や能力を知り、掃除やカーテンの開閉、食台拭きなどの役割を担ってもらい、達成感や満足感につながるよう支援している。また遠足や買い物、外食に加え、誕生日に本人がしたいことを実現していただく企画を実施し、好評を得ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物、他施設での催し物、通院など、一人ひとりのその日その時の希望にそって外出支援を行っている。誕生日に行う企画では、特に「希望が叶う」と利用者から喜ばれている。	紅葉狩りやミカン狩り、花見など積極的に外出している。近くの海岸で昼食を食べたり、レストランに出かけたりするなど利用者の楽しみをつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力や希望にあわせて金銭を所持してもらったり、買い物の際に使用してもらったりし、社会とのつながりを維持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど季節のお便りを出すために、葉書やペンを用意し、内容のアドバイスなどを行っている。また電話の取り次ぎをしたり、携帯電話使用の支援を行い、大切な人との交流を続けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やトイレ、リビングには季節を感じられるように花や飾りを置いている。明るく日当たりの良いリビングでは食事作りの音やにおいが感じられ、皆が集まりやすく、ゆったりと居心地よく過ごせるよう気をつけている。	リビングは日当たりが良く、明るく過ごしやすい空間となり、みんなが集まってゆったりと過ごしている。玄関や廊下、トイレには季節の花を飾るなど、気持ちよく過ごせるよう整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーやリビング、廊下などに配置したソファでゆったりと、ひとりで、また気の合った利用者同士で居心地よく過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、タンスやベッド、仏壇など、使い慣れた家具や馴染みの品を持ってきてもらえるよう説明し、家族の協力も得ている。備え付けの収納スペースは明るい色のカーテンで仕切り、写真や花などを飾り、本人が安心して過ごせるよう家庭的な雰囲気づくりに気をつけている。	居室には馴染みの家具を配置したり、好きな花や家族からのプレゼントを飾ったりし、本人が居心地よく過ごせるよう工夫されている。全ての居室には南からの日差しが差し込み、明るく清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの“できる力・わかる力”を把握し、それぞれに合った方法での最小限の支援で、できる限り自立した生活を安全に送ってもらえるよう心がけている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員でつくりあげた理念を、毎朝の引き継ぎ時に唱和している。また、全体ミーティング等で、理念・基本方針を話し合って確認し、理念に基づいた地域とのよりよい関係を築けるよう実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	庭での花火や研修、ボランティア来所等の前には、利用者と共に近所に挨拶に出かけ、参加をお誘いしている。小学校の廃品回収に毎回参加しているため、音楽発表の際に声をかけてもらえるような関係になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症やホームでの取り組みに関するパンフレットを作成して配布し、知ってもらえるよう働きかけている。小学生によるホーム探索や交流会を行ったり、教員に対する説明や見学を行ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加している民生委員や近隣住民、家族に協力を得て、小学生との交流やボランティアの来訪等につながっている。議事録は全職員が閲覧し、内容を把握している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	要介護認定等の更新手続きや支援内容の相談、運営推進会議の議事録提出時、電話等で質問や相談を行い、話し合える関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開き、全職員が身体拘束をしないケアを共有し、実践している。また、鍵をかけることの弊害を理解し、見守りや言葉かけを行い利用者一人ひとりの状態を把握し、施錠しない暮らしを心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃さざれることがないよう注意を払い、防止に努めている	全職員で学ぶ機会をもち、虐待の防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が地域包括支援センター主催の勉強会に出席して学んだことを全職員に伝えるなどし、少しずつ学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約の申し出があったときには、本人や家族と話し合う時間を十分に持ち、理解を得て納得してもらえるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は常に利用者や和気藹々と話し、また家族の面会や行事の時には声をかけ、希望や意見を話しやすい雰囲気づくりを心がけている。玄関には意見箱を設置し、外部への苦情相談窓口のポスター掲示も行い、周知している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や週1回のケア会議、月1回の全職員参加によるミーティングの際に、意見や提案を出し合うようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修情報を収集し、職員の段階に応じて受講できる機会をつくっている。研修内容はミーティングで発表し、また報告書は全職員で回覧して共有し、日々のケアの中で実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会徳島県支部に加入し、研修会等に積極的に参加している。また、同業者との交流を通して勉強し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談したり、見学にきてもらったりして十分に話をしたうえで、納得して利用してもらえるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様に、家族からも十分に話を聞かせてもらい、安心して利用してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたり、面会したりした時に本人や家族の思い、状況等を確認し、関係を築いている。他のサービスが適切だと判断したときにはその旨を伝え、紹介等を行っている。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である利用者から礼儀作法や家庭菜園での作業方法、調理を教えてもらう機会が多くある。またねぎらいの言葉をかけあうなど、生活のパートナーとしての関係を築いている。		
19		○本人を共にえあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告をしたり、行事に参加してくれた時には楽しい時間を共に過ごしてもらえるよう配慮している。職員は、家族とともに喜び、悩みながら本人を支えられるよう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた事業所で馴染みの人が集まる楽しい時間をもったり、地域の美容院へ行って昔話に花を咲かせたりしている。また友人の来訪を受け入れ、以前からの関係が持続できるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションなどの時には、職員が利用者の中に入って一緒に過ごし、一人ひとりが孤立することがないように見守り、利用者同士の関係がうまくいくよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った方に会いに行ったり、行事に誘ったりしている。また運営推進会議への出席を依頼するなど、継続的な関わりを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとの担当職員が中心となって、本人や家族の意向、要望を聞いたり、日頃の何気ない会話の中から生活への思いや希望の把握に努めている。また全体ミーティングで職員全員で共有し、日々の支援に反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者を理解し、生活のパートナーとして一緒に暮らしていくために、アセスメントが大変重要で意義のあることだということを入居時に説明し、本人や家族に納得してもらっている。生活歴や馴染みの暮らし、入居に至るまでの経過を詳細に聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の支援の中から、生活リズムや本人のペースをつかみ、一日の過ごし方や心身の状態、残存能力など有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望・希望を基に、かかりつけ医や看護師からも意見を聞き、職員による日々の気づき等も参考にしながら介護計画を作成している。毎月のケース会議では、課題分析と評価を行い、状態変化時には利用者や家族、必要な関係者と相談しながら、随時、見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を作成し、バイタルや一日の行動、職員の気づきなどを全員が共有できるようにしている。介護計画の見直しにも十分活用できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や外出、外泊などは、本人や家族の要望、状況に応じて、個別かつ柔軟に対応している。短期利用型共同生活介護を活用し、在宅の利用者への支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員から地域や公民館での行事の情報を教えてもらったり、小学生やボランティアとの交流、消防との協力、地域のケアマネジャーから意見を出してもらうなどし、利用者が地域の中で安心して暮らせるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じたかかりつけ医への受診を支援し、家族や職員が付き添っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。職員は、利用者一人ひとりの体調や些細な表情の変化を見逃さないよう、早期発見を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には頻繁にお見舞いに行き状態を確認したり、担当医師や看護師と情報交換を行ったりしている。退院に向けた相談についても同様に対応し、本人や家族の不安を軽減できるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に向けた対応は、本人や家族の意志や希望を踏まえ、最後まで尊厳を持って生活できるよう関係機関と連携している。また、事業所の対応方法を契約時に説明し、随時、個別の状態に合わせて話し合う時間をもち、全員で方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に、適切な対応ができるようマニュアルを作成し、勉強会や話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、火災を想定した避難訓練を行い、利用者にも必要性を感じてもらっている。消防署の協力を得て行う防災訓練には、地域の方の参加もあり、協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は高齢者に対する尊厳の気持ちを大切に接している。日常的な言葉かけや入浴、排泄支援時には職員がお互いに注意し合いながら、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応ができるよう気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のつぶやきや表情などから思いをくみ取り、自分で決めたり納得できるよう、一人ひとりに合わせた言葉かけや支援方法を考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度決まった生活パターンの中であっても、利用者一人ひとりのペースを大事にし、時間をずらしたり、延長したりしている。家族との時間を優先するなど、体調や希望に合わせた暮らしが送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃の身だしなみや外出時のおしゃれなどは、本人と話しながらその人らしくできるよう支援し、また、馴染みの美容院や訪問理美容も活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつや材料や果物類と一緒に買いに行ったり、献立作りや野菜の収穫、食材の仕分け、調理、配膳、後片づけなど、それぞれのできる力を活かした支援を行っている。また食堂やベランダなどで、利用者と職員が一緒にテーブルで、同じ物を食べながら楽しい時間を過ごしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列施設の管理栄養士が作成した献立を参考に、栄養バランスに配慮した食事を提供している。一人ひとりの状態に応じた支援ができるよう摂取量を記録し、変化時にはかかりつけ医の指示を受け、形態や支援方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、歯科衛生士から指導を受け、口腔内の清潔に気をつけている。食後には一人ひとりの状態に応じた支援を行い、気持ちよく過ごしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の確認や職員間での情報共有などによって一人ひとりの力や排泄パターンを知り、言葉かけや誘導で失敗を減らし、気持ちよく過ごせるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に豆や野菜、海藻類を多く取り入れ、水分や乳製品の摂取にも努めている。また、毎朝の体操や歩行訓練、散歩など身体を動かすことも勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望に合わせ、また安心して入浴できるよう配慮している。仲の良い人同士と一緒に入ってもらったり、足が冷える人などには毎日足浴を行ったりし、喜んでもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活パターンを知り、また、状況や体調に応じた支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の管理の大切さを理解しており、個々の説明書により把握するよう心がけている。薬の変更があるときには、細やかな状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの希望や能力を知り、掃除やカーテンの開閉、食台拭きなどの役割を担ってもらい、達成感や満足感につながるよう支援している。また遠足や買い物、外食に加え、誕生日に本人がしたいことを実現していただく企画を実施し、好評を得ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物、他施設での催し物、通院など、一人ひとりのその日その時の希望にそって外出支援を行っている。誕生日に行う企画では、特に「希望が叶う」と利用者から喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力や希望にあわせて金銭を所持してもらったり、買い物の際に使用してもらったりし、社会とのつながりを維持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど季節のお便りを出すために、葉書やペンを用意し、内容のアドバイスなどを行っている。また電話の取り次ぎをしたり、携帯電話使用の支援を行い、大切な人との交流を続けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やトイレ、リビングには季節を感じられるように花や飾りを置いている。明るく日当たりの良いリビングでは食事作りの音やにおいが感じられ、皆が集まりやすく、ゆったりと居心地よく過ごせるよう気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーやリビング、廊下などに配置したソファでゆったりと、ひとりで、また気の合った利用者同士で居心地よく過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、タンスやベッド、仏壇など、使い慣れた家具や馴染みの品を持ってきてもらえるよう説明し、家族の協力も得ている。備え付けの収納スペースは明るい色のカーテンで仕切り、写真や花などを飾り、本人が安心して過ごせるよう家庭的な雰囲気づくりに気をつけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの“できる力・わかる力”を把握し、それぞれに合った方法での最小限の支援で、できる限り自立した生活を安全に送ってもらえるよう心がけている。		